



イヌマキ等の害虫

『キオビエダシャク』にご注意！



近年、本町において、イヌマキ等（イヌマキ、ヒトツバ、ラカンマキ、ナギ）の害虫である『キオビエダシャク』の生息が確認されています。

今後の被害拡大が懸念されますので、ご自宅の庭にイヌマキ等がある方は十分注意してください。



◆キオビエダシャクはどんな虫？

成虫は、体長約2cm、開長約6cmで、全体的に紺色の羽に黄色の帯がある蛾です。昼間に飛び回ります。幼虫は、体長約5cmのシャクトリムシで、頭、尻及び側面がオレンジ色、他の部分は灰色と黒色のまだら模様をしています。

幼虫のみがイヌマキ等の葉を食べ、丸坊主になるまで食害することもあり、被害にあった樹木が枯死する場合があります。

◆発生したら

①幼虫の発生が少ない場合

木を揺すって落ちた幼虫を駆除します。また、木の根元の土中に茶褐色で紡錘方をしたサナギがいますので、掘り出して駆除します。成虫は、捕虫網などで駆除します。

②幼虫が大量発生している場合

薬剤散布が効果的です。薬剤がムラ無く葉の裏にもかかるように散布します。その後は定期的に観察して発生を確認したら散布を実施します。ただし、薬剤散布は幼虫を殺すには効果がありますが、成虫、卵及びサナギには効果がありません。



◆自分で薬剤散布する時に気をつけることは？

- (1) 行う前には、あらかじめ近所の方にも連絡し、散布中は、周辺の農作物や通行人等に飛散しないように注意しましょう。
- (2) 風がないときに、日中の暑い時間を避け、朝夕の涼しい時間帯に行いましょう。
- (3) 薬剤がムラなく葉の裏にもかかるようにしましょう。(幼虫は葉の裏にもいます。)
- (4) ラベルの説明書を必ず読んで、記載内容に従って正しく使用しましょう。
- (5) 薬剤の希釈倍数を間違えないように注意しましょう。
(決められた希釈倍数より濃い濃度での散布は危険ですので、やめましょう。)
- (6) 散布を行う際は、薬剤が体に付着しないようにマスク、手袋、帽子、長靴、雨合羽などを着用しましょう。
- (7) 散布後はただちにうがい、洗眼を行い、また手足等を石鹸で洗い、衣類は下着まで着替えましょう。

薬剤名	希釈倍数	使用液量 (10アール当たり)	同じ有効成分を含む 農薬の総使用回数
トレボン乳剤	4000倍	100～700リットル/10a	6回以内
スプラサイド乳剤40 (DMTP)	1500～2000倍	100～700リットル/10a	5回以内
ロックオン (フルベンジアミド)	1000倍	100～700リットル/10a	2回以内
アディオン乳剤 (ベルメトリン)	4000～8000倍	100～700リットル/10a	6回以内

◆自分で薬剤散布が出来ない場合

自分で薬剤散布ができない場合は、大隅森林組合【☎0994(40)1611】や造園業者等にご相談ください。ただし、業者による薬剤散布は有料となります。

お問い合わせ先 肝付町役場 林務水産商工課 ☎0994(67)4513